



発行所 青山同窓会  
新潟市関屋下川原町二  
新潟高校内  
印刷所 オリオン印刷株  
0252-83-2151

# 募金のご協力に感謝

青山同窓会会長

鍵富清一郎



会員のみなさん、創立九十周年おめでとうございます。

数年前からの準備のもとに、みなさんの協力を得て、十月二日の

今年には青山九十周年。十月二日(土)には記念式典と祝賀会を挙行することになっております。これは学校、同窓会、PTA三者合同で行うもので、同窓会の総会はまた別である。

学校の創立記念日は毎年七月一日だし、同窓会の総会は七月に開くのが例になっております。年々歳々似たもののはずなのだが、九十周年ということになると、やはりいろいろ考えこんだりする。根源を忘れるなどという古来の人間の知恵だな、と思う。きょう(七月二十日)の総会が、例年どおり盛会

式典にむけて着々と計画が進んでいます。特に各期幹事さんのご努力で募金計画が順調に進んでいることは何よりです。本当にありがとうございます。これも会員の皆さんの母校愛のためものと思っております。他の学校では、同窓会の募金が仲々集まらないので、どうしても集まるのか新潟高

であるようにと祈りながら、トポトポと原稿用紙のマスを埋めていきます。

私事をいえば、私は青山五十回



卒。つまり創立五十周年のときに五年生で在校した。あのとき、記念行事の一つに、建川美次陸軍中



90周年を迎える新潟高校(正門)

## いざもろともこ

幹事長 上村光司

なごとながら、思い出せない。過ぎたことはさっさと忘れたいという格好がいいが、実はアタマ

何であつて……と聞かされてはその記憶の確かさに感心するばかりなのである。——というよう

将の講演があつたことは覚えていたのだが、敵中横断三百里のスター、二・二六事件の脚本家の一人として当時高名だつたこの將軍が何を話したのか、まことに失礼

の容量が乏しくせに、日記めいたものもつけたことがないのだから、大酒飲みが泥酔した翌朝のようなもの。同期の誰かれから「あの時はこうで、そもその原因は

情ない卒業生ではあるが、このころ「縁」ということを、何かにつけて思うようになっていた。

この地球に、同じ年に、近い所同志に生まれてきて、それが二百五十人とか四百五十人とかにくく

に成長する。ある旧制高校で、歴代人気ベスト・テンを維持していた寮歌の一節に「野路の村雨晴るの間を、しばし木陰の宿りにも、奇しき縁(えにし)のありという

とあつて、かつてはオーバーな表現よと口の端をひん曲げたことが(二面上段へつづく)

## いのいのの青山

学校長

本間 忍



創立九十周年を迎えたこのころの学園のようすを点描し、現況報告に代えさせて戴く。

### その一・文武両道

大進学学校という、明けても暮れても受験勉強一色で、生徒は青白い顔して目をつり上げているというイメージと結びつきやすいが、わが校はさにあらず。むしろクラブ活動に夢中になり、薄暮になつても帰ろうとせず、警備員に「早く帰れ」とどなられている毎日。その故か、スポーツクラブの成績は相当なもので、県大会の四強、八強に進出する部がかなりある。時には優勝旗もさらつてくる頼母しさ。

### その三・古い建物

鉄筋校舎が雨漏りするようになっていた。毎年、相当額をかけて手当てしているが追いつかない。そろそろ建て替えの時期にきているのではない。いまから手順を考え、来るべき百周年記念事業として校舎全面改築といくのは考え過ぎであらうか。木造建物はブルのわきの大正十年生まれの校長公舎だけとなった。いまだき、サツシ戸の一枚もない家などまことに文化財物。住人である私は末長く後世に伝えたいと思つているのだが、

この夏の焦点は野球部の甲子園初出場成るかどうかだ。昨春秋とことしの春、同じメンバーで県下を制覇しているので九〇%の可能性はあるという。その節は、OBの皆様方、どうぞよろしく。

### その二・女の進化?

女子生徒がどんどん増えてくる。一年生の女子の数を年度ごとに示すと次のようである。五十四年一

一九五五年一三八、五十六年一五三。(ここで三分の一を超えた五十七年一六〇。相対的に男子生徒の数が減ってくるわけだ。以前は、少数なる故に、女生徒の存在を無視(?)して学校運営ができたわけであるが、このころはそうもい

「いざもつとも」  
（前頁5段目よりつづく）

あったのが、このごろは違和感な  
しに、時にふれて心に浮かんでく  
る。つまりはトシというところの  
だろが、今年もまた総会を控え  
て口ずさんだりしてみている。

それにしても賢明な処理だった  
と思う。昭和二十一年の学制改革  
で新潟中学校は消え、新潟高等学  
校が誕生した。校長先生はじめ先  
生方も多く引き継がれたが、  
厳密に言えば両者は別個のもので  
あるはずだ。それが何の抵抗もな  
く、当然のように「青山」のまま  
卒業回数も通算で来ている。国の  
内外にその例は多く、わが校独自  
のことでないにしても、その連綿

性を作り出し、教育の場を尊んで  
いく先輩諸氏、学校当局の知恵で  
あり、同時に「青山」に寄せる熱  
い思いと誇りを物語るものなのだ  
ろう。

創立七十周年記念誌「青陵」の  
中で、十六回（明治二十七年入  
学）の本間徳雄氏が書いている  
「富所通からドン山を突き抜け  
寄居浜までは約一キロはあったと  
思う。海水浴に行くのに足の焼け  
るのを防ぐため敷板がしかれた。

中学水泳部練習所がここに設けら  
れ（略）中学は現在の高校の位置  
で、「階建てペンキ塗り」で（略）  
当時としては自慢のものであった。  
繁華街はもちろん、古町で中学生  
の唯一の集会場、はり糸もここに  
あった。文中、浜まで二キロとあ

が校発祥の地・曹洞宗中学校とは  
この付近にあったという。ドン山  
跡は私の記憶にもあったが、いま  
はここを指し示すことができなく  
なつた。  
浜は昔の浜でない。明治二十七  
年と昭和五十七年との一瞬すつだ

が現在では一・二キロ程度のは  
ず。砂丘が一分以上消えて護岸  
のいかめしさが、波との苦闘を物  
語る。ドン山とは、正午の時報に  
大砲を射った場所、そもそもわ



青陵健児の像

けを比較すれば断絶のすまじさ  
ではあるが、しかし浜はやはり同  
じく新潟の浜であり、今後も新潟  
の浜であり続ける。同窓会の姿と  
は、そういうものなのだと思う。

恐ろながら私事を続けさせてい  
ただく。私は新中を出てから約四  
十年になつた。現在まで新  
潟を離れたのは七年に足りない。  
当然毎年の総会のご案内はいた  
っていたが、良く出席するように  
なつたのは四十歳ころからだつた  
ように思う。それ以前も全然出席  
しなかつたわけではないが、大先  
輩の意気あがる片隅で、時間もも  
て余すばかりだつた。同期から一  
人も出ないでは義理に欠けると勇  
をふるつてのことだつたのである。  
昔を批判してのことではない。

この欠陥面に大改革をふるつた  
のが、鍵寛会長・斎藤（希二）幹  
事長の昭和四十四年当時である。  
四十五年に総会会場を万代橋東詰  
めの「香港」にして出席者倍増  
これも狭くなつたと五十五年にお  
くクラホテルに変えた。昨年は出  
席九百人以上。かつては三百人台  
が続いたころがあるから、五百人  
は増えた。その主力はいわゆる若  
い層であり、一応目標のラインに  
乗つた、といえるところに来た。

総会が同窓会のすべてではない。  
しかし、同窓の縁による組織とし  
て、お互いの親睦を深める機会で  
ある総会は基本的なものだし、同  
窓会の活性化を表現するものと考  
えている。



青山会館

かつての「青山クラブ」的なもの  
を作れないかという話は、時に  
浮かび時に消えている。たと  
えば東京では、郷里を離れてくる  
学生のための相談や施設をとい  
う希望もある。資金が集まらぬと決  
めてかかることはない、とハッパを  
かけられたりもする。気宇壮大な  
話には、つい乗りたくありません。  
しかし同窓会は「同じ学校で学  
んだ」という縁が基盤であり、受  
益——という言葉を用い得るかと  
うかも疑問だが——は平等である  
べきだし、受益という觀念自体が  
会にヒビをいれるのだと自戒し  
ている。つまりは親睦に始まり親  
睦に帰するものが本筋であつて、鍵  
寛会長の「会費は原則として、で  
きる限り安く」は卓見だと思つた。  
それはともかく、先日は旧校歌  
について次のような指摘をいた  
だいた。

# 同窓会を活用しよう

総会実行委員長  
52回 筑波竜二

青山同窓会の総会は、ここ十数  
年にわたり会員諸師のご理解と  
ご協力により、年中行事としてほ  
ぼ定着して来たことは、喜ばしい  
限りであります。今年には本校創立  
九十周年を迎え記念式典を始めい  
ろんな記念行事が計画されてお  
ります。これは十年を一節としての  
大きな行事となる訳ですが、同窓  
会員の中には九十周年記念式と通  
常総会を併催しては……と云うご  
意見もだいたいあると思います。過  
去の前例からみまますといづれも併

催さないで、毎年七月の通常総会  
とは別に開催して参りました。こ  
れは〇十周年記念式と総会との内  
容が異なる性格をもつておるからで  
ございます。即ち〇十周年記念式  
及び行事は学校そのものの行事で  
あつて、それに学校後援会、同窓  
会、PTAのメンバーが参画し、  
実行委員会をつつて協力するも  
のであり、同窓会のみを通常総会  
においてなされるセレモニーや議  
事などと異なる会合であるからであ  
ります。さて今更同窓会の意義な

どを申しのべることは差し控えま  
すが、毎年一回の総会に出席し、  
同期の友人と旧交を温め、その健  
顔に接し消息を確かめあうと共に、  
同窓の先輩、後輩と交換を行うた  
めの貴重な機会となる訳ですが、  
社会人としてそれぞれの商売や趣  
味や善意の社会活動にも大いに利  
用されるべきと考えます。同じ学  
窓に育つた親近感と連帯感を通し  
て、大事を取引話しの潤滑油にし  
ることに、何ら遠慮はいらないと  
思いますし、活用すべきと存じて  
おります。同窓会をきれいに終  
らせないで、どうか先輩は後輩を  
大いに引立て下さい!! そして  
同窓生が益々発展するようお願い  
します。

毎年の総会を迎えるたびに、実行  
委員会の諸君は、今年はどうすべ  
きかと頭を悩まし、終わってはま  
た自問自答を繰り返す。多様な欲  
求のすべてに応ずることはできず  
かと言つてオール・マイナスでは  
何ともならない。しかし、まずま  
ず「所期の縁」に達しつつあるとい  
う状況の中で、青山同窓会は今後ど  
う在るべきかというご意見が、い



会津八一博士歌碑

ろる伝わつて来ている。  
かつての「青山クラブ」的なもの  
を作れないかという話は、時に  
浮かび時に消えている。たと  
えば東京では、郷里を離れてくる  
学生のための相談や施設をとい  
う希望もある。資金が集まらぬと決  
めてかかることはない、とハッパを  
かけられたりもする。気宇壮大な  
話には、つい乗りたくありません。  
しかし同窓会は「同じ学校で学  
んだ」という縁が基盤であり、受  
益——という言葉を用い得るかと  
うかも疑問だが——は平等である  
べきだし、受益という觀念自体が  
会にヒビをいれるのだと自戒し  
ている。つまりは親睦に始まり親  
睦に帰するものが本筋であつて、鍵  
寛会長の「会費は原則として、で  
きる限り安く」は卓見だと思つた。  
それはともかく、先日は旧校歌  
について次のような指摘をいた  
だいた。

「旧校歌の四番（文にはた武に  
幾十年、裏日本に名を挙げて）は  
——裏日本の覇者として、であ  
つた。五番の（いざわが友よもろ  
ともに、真白き砂の丘の上）は、  
——白砂塵なき丘の上）であつ  
たはず。作詞の相馬御風先生にも  
はばかりがある。いつ、どのよう  
にして変えたのか。」  
また応援歌のルーツを明らかに  
しておこうという動きもあると聞  
く。これなどは、ご協力、ご教示  
いただける方に名乗りをあげて  
いただけたら幸いである。気宇壮  
大な計画よりも、このあたりから着  
実に処理していく方が順序でなか  
らうかと考えている次第。

昭和二十九年四月の校舎焼失か  
ら再建への歩みの中で、募金をは  
じめとする同窓会の底力には、他  
の同窓会は舌を巻いた。創立七十  
周年の体育館新築、八十周年の青  
山会館新築など、ことあるごとに  
募金をお願いしたが、目標は必ず  
達成された。いま九十周年で格技  
場備品等のための募金中だが、総  
額ではすでに確保済みである。同  
窓会事務局へ各校から「青山はど  
うしてスムーズに集まるのか」と  
ノウハウを聞いてきたという話が  
あるくらいだ。  
答えは簡単。卒業生の質がいい  
こと、母校に思い入れを持って  
いることが土台になつていけるわけ  
だろが、簡単なものではない、各期  
幹事の「奮闘」によるといふ点だ。  
労多く、時にははつるし上げをく  
いこそすれ、報われることのない役  
目を着々と果たしていただいでい  
る。これこそが同窓会活動の根  
幹であり、この紙上を借りて深く  
お礼を申し上げます。  
会員各位のご健康とご清栄を祈  
りつつ——。



工事始まる第二体育館

九十周年事業が各種進行中であるが、各部門別にその計画の内容と進捗状況を報告いたします。

記念式典・記念祝賀会

十月一日(土)、本校体育館にて十時から約五十分間の予定で、式典を挙行後、会場を新潟市体育館に移し、記念祝賀会を一時二十分から三時までの予定で開催します。会費は三千円で、前売券を八月中旬に発売します。

記念講演会・記念講演会

すでに同窓会より寄贈していただいたランドピアノ披露演奏会を開く予定です。十月一日(土)式典後十一時から約一時間。ソプラノ独唱・山崎景子、ピアノ独奏・伴奏・岩沢延枝の出演。

記念講演会は、在校生を対象として、十月十日前後、現在石黒久氏(七三回卒・エベレスト登頂者)に講師をお願いすべく交渉中です。

青山九十周年記念誌

新書版約五十頁、単価は約百円、九月中旬完成を目途に、本校の社会科教諭を中心に鋭意編集作業中です。

青春の森 九十年の歩み

毎日新聞、新潟地方版に連載された本校物語り版。新書版約一六〇頁、単価は約五百円、九月中旬刊行予定です。

青山同窓会会員名簿

八十周年記念事業の一環として出版された会員名簿の整備、改訂増補、新会員の追加等の作業も終了。目下印刷、本校同窓職員による校正中。B四版約七百頁、頒布価格二千円、九月末完成予定です。

第二体育館建設

かねてより体育施設の拡充が望まれていたが、今回県費による一階建の体育館建設が認められ、一三〇〇平方メートル(二十九米×四十七米)で、六月末日着工、明春三月末完工予定です。完工の暁には、施設、備品の充実が望まれます。

クラブ活動振興基金  
野球部の昨春秋、本年春の県大会優勝、北信越大会出場、その他陸上、水泳、剣道、柔道、フェンシング等、北信越大会に参加、各クラブの活躍がめざましい。今後共大いにクラブ活動の振興をはかるべく、今回すくなくとも五百万円から六百万円の基金を設けたいとの念願を持っています。

以上、各分野での事業計画に賛同して、現在連日のように寄附金が出せられ、現在十六百万円に達しております。目標額の二千万円に達するのも時間の問題だと思えます。十月一日、式典・祝賀当日まで受け付けておりますので、何卒よろしく御協力下さいますようお願い申し上げます。

校内幹事60回・上杉雅之  
この二つの目的に向って、新潟高校そのものが今、やっと進み出しているのではないか。

権利と義務

三年 茂野俊也 (前生徒会長)

人というものは走ってきた道を振り返り、これからの道占いがかるのである。そして時の流れの中で立ち止まるのは、何か事を始めてから何周年という時が多いように思う。創立九十周年の今年も、そういう意味で、見直しのよい機会であると思う。

「青陵祭改革」を一部にすぎないと言っるのは私なりに今の生徒会を考へる時、二つの事を最重要問題とするからである。

まず第一に、生徒会会員の無関心である。権力を守る一手段である。生徒会もまた、しかりであると思う。教師にあまり干渉されず自主自律を校風として掲げられるのも、青陵祭を新高生の祭りとして維持していられるのも、すべて生徒会存在のおかげであると思う。ところが現状はどうであろうか？ 生徒会という大きな権利を自らの手で奪い取ってしまったのではないかと。

第二に、生徒会において権利と義務というものをわすれてしまっているのではないか。

弱々が一致団結して権力に対抗することは、権力を守る一手段である。生徒会もまた、しかりであると思う。教師にあまり干渉されず自主自律を校風として掲げられるのも、青陵祭を新高生の祭りとして維持していられるのも、すべて生徒会存在のおかげであると思う。ところが現状はどうであろうか？ 生徒会という大きな権利を自らの手で奪い取ってしまったのではないかと。

90周年寄付金入金状況報告

募金に関しては各期幹事をお願いしておりますので、まだ始めてない期は早くてお願い致します。尚、まだ納入さされていない方は下記へ納入下さるようお願い致します。

現 金 母校同窓会事務局  
銀行振込 第四銀行学校町支店  
口座0275210 青山同窓会  
郵便振替 口座新潟4455 青山同窓会

Table with 4 columns: 期別, 金額, 期別, 金額. Rows include periods 1-30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54・55, 56・57, and a total row.

57. 7. 5 現在

様々なところで見られるが、権利ばかり主張して、義務を果たさうとしない。自分の言うことはいいが、他人の意見には耳をかきない。(読者の諸氏も心当たりがあると思うが)

団の一員であるならば、必ず義務がつきまとう。義務も権利も等しく重要であり、義務を果たさうということは、ある意味で権利なのではないか。

胸元に

記念のネクタイピンを!

90周年記念事業の一つとして、写真の見本のようなマーク入りのネクタイピンを作りました。

価格は銀製(マーク)五千円、金メッキ製は千円で、それぞれ限定製作品ですが、総会当日及び式典当日に販売いたします。



# 祝 創立90周年おめでとう

## 寄稿特集 思い出の記

### 九十年史の生き証人

## 小柳篤二氏自伝のこと

53回 柘 沼 昭 夫  
(本校 教頭)

金人金中育中

まだ先だと思っていた創立九十周年式典・祝宴もあと三ヶ月、校内の実行委員会を中心に準備を進めております。タイミングよく昨年秋から毎日新聞の新潟版に連載されていた「青春の森」新潟高校の九十年もこの四月に完結しました。瀟洒な新書版としてこの秋に出版される予定。祝宴にご出席の来賓、同窓の皆さまにもお届けすることにしております。

ところで、この「青春の森」の最後のしめくりの小柳篤二(本校第十回卒)が登場します。恐らく生存している同窓生の中の最長老と思われませんが、この大先輩については既に昭和五十四年一月の「会報」二十八号に「小柳篤二先輩をお訪ねして(六十回小林智明)」という記事が載っておりますので覚えておられる方も多いと思います。

私は生来体が弱くて、小学校

時代は欠席勝ちであった。中学へ入ってから大分丈夫になったので体を作ろうと思つて野球を始めました。私を猛烈に鍛えてくれたのは建川美次氏で、後陸軍中

## 配属将校菊池芳之助氏 戦死の報

40回 土 屋 均

昭和七、八年頃在学中の方なら覚えて居られることと思いますが、菊池芳之助と云う少佐の配属将校が居られた。京都新聞連載の戦記「防人の詩」に同氏の戦記が載っていたのでその一節を送ります。

兵の損耗の増大……といえ、それは隊内の厳しいまでの軍規方能主義と、これに加えて、長たもののかたくななまでに凝固した思念が明らかに無用の出血をも兵士達に強要していた。

歩兵第百二十八連隊第一歩兵砲小隊の下坊熊治兵長によれば「我々がイボウ(ビルマイラワジ河近く)の戦線に布陣した時、第二歩兵砲小隊の戦力は砲一門と弾薬二十発、兵十名という微弱なもの

将になった人である。

明治卅二年秋新潟中学が長岡中学と野球試合をやることになり、建川氏が監督で私は捕手に選ばれた。その時の長岡の遊撃

でしかなかった。だが微弱なりとは言え我々は砲戦の用意を整えていた。しかし乍ら遮蔽物もない砂丘状の地形に突如、十輦もの敵戦車の来攻を前に、我々はそのあまりの戦力の差違に砲を破壊しての

後退に移らねばならなかった。だがこの報告を受けた連隊長菊池芳之助大佐は激怒し『砲を捨てたるとは何事か。直ちに部隊に持ちかえれ』と厳命。小隊長野村四郎中尉が、すでに砲は破壊してあるため使用不能の旨を繰り返して進言したにも拘らず、怒号と罵倒の

声は大きくなるばかりで、遂に我々小隊から敵中への決死的な砲撤収班が出されたのだ。この一隊は砲撤収班が中井俊蔵隊長、土田一上等兵、大西利

が山本五十六氏(当時高野姓)で短軀敏捷な男であった。試合は途中で大雨になり中止したが学校の都合で再試合は出来なかった。後年建川が参謀本部第一部長、山本が海軍次官でよく顔を合わせたそうだが、『あの時勝負を付けたら俺の方が勝つていた』と両々相譲らなかつた。小男だが負けん気が強い方だったからその光景がありありと思ひ浮べられる。



れを引きずり乍ら帰隊し得たが、砲撤収班の三名は、その出発後、全員奮として消息を絶つたまま、再びその姿を隊内に現わさなかつた。

軍規とは言え、敗退又敗退の時期、しかも既に破壊された無用の砲撤収の為、還らぬ人となつた部下は憫の外なし。今次大戦にはこれに類似した無益の犠牲は多々あつたと聞く。

菊池大佐も配属将校時、屢々痲瘤を破裂させ、眼鏡の奥の鋭い目が想い出される。喋れば立板に水の如く、滔々とし留るところを知らぬ状態、これ等を想い合せ激怒の状況が想像出来る。

氏も昭和20年7月17日、爆撃の為戦死されたそうです。冥福を祈り筆を擱きます。

## そのころ

42回 中 野 一 松

昭和五年、梅田三郎校長着任の年の入学である。今の関屋田町造成のトロッコが、裏の砂山を削りガタゴトと走り続けていた。念仏寺から上の方は、まだ松林と砂丘が続き、西瓜畑、かぼちゃ畑が広がっていた。

在学した昭和十年春までの日本は、軍国主義の荒波に翻弄される寸前の時代、齋藤軍鶏大尉の声はいよいよ特異な響きを増し、風運急を告げようとしていた。来る日

も来る日も、敬礼！敬礼！でしぼられた。不景気のおおかりか、先輩の書込みの多い古教科書を使うことが流行していた。嵐の前の静けさか、聞きしにまさる慨嘆演説も、昔ほどの無軌道ぶりはなく、関屋だんごは健在であつても、古町の都屋でコンパをやる進取的な一面も失つていなかった。

二年生の時、創立四十周年記念式、前年から寄宿舎が壊され、その跡地をプールにと、労力奉仕に

汗を流したことだけは、妙に印象にある。そのプールで泳いだかどうか……まだ海が健在だった頃で魅力はなかつたのだろうか。

その仲間が、兵隊にトられ、ヒツパされたのが、卒業一、三年後ののだから、完全に青春は軍国日本本の渦に塗つぶされたわけ。

今、毎年十一月第二土曜を集まる日として、好々爺然とした仲間が、年を忘れ、十代に還り、嬉々として語り合。あのころ、そのころは皆の脳裏に生きている。



# 敬慕措く

## あたわざる先輩

44回 田中勝治

概嘆演説で縮みあがらせられた昭和七年、一年坊主はただだ、前へ出よの厳命が自分に下りはせぬかと、前をよぎる五年生に戦々競々。

柔道部でも同様、道場の外でグランドを前にして一列横隊に並ばされ、グランド向う側迄、自分の前のゴミを拾え、の命令。次いで「やりたくない者、前へ出よ。」やりたくない者はやらなくとも良いのことかな、と早人吉原、勇ま

# 緑で育った恋心

44回 小池壽哉

一年は赤、二年は黄、三年は緑、四年は青—こう云えばもう皆さんはおわかりでしょう。

静かな東北の一農村で育った私は、新潟中学に入学して何日かたつた或る日から、何となく覚えたこのネクタイの色に心ひかれるようになった。毎朝毎晩同じ道をすれ違いうるいろな色の彼女達—いつとはなしに純朴な私の心を刺

激し、異性を慕う淡い美しいものを芽生えさせたのは当然だろう。

赤、黄、緑、青。でも何故か緑が一番私の心をゆすぶった。好きな色になっていた。一年の時も二年になっても五年になっても、やっぱり緑が好きだった。入舟町から自転車を通っていた頃の或る日、ガチャン!! 途中で弁当箱を落とした。相当のスピードで走っていたので急ブレーキをかけふり向いたら、女学生が弁当箱をもって

当りてぶつつかるだけ。ぶつつかっては投げられ、起き上がりざまぶつつかる。何回か何十回かぶつつかり投げられ、又ぶつつかりの体当たり。フーッ息が続かなくなるまで遂に「参りました」と鄭重に有難うございましたの意を込めて畳に手をつけておじぎをする。すると、参りました、としやべられるではないか。ほんとに参っていない証拠だ。まだ駄目だ」と放免して呉れない。ケチオンケチオンに、五体フニャフニャに成る迄もまれた。

この先輩現、青山柔道部名誉会長の小島松一さんですが、高橋是成会長始め全後輩より慕われている文字通り敬慕措くあたわざる良き先輩です。

ぼるのがはつきりとわかった。緑で恋を知り緑で恋心を育てられた私は、緑の季節が大好きである。私の入社した会社の色も緑だった。新緑の若葉の候、すべてがこれからのびようとする青春そのものの季節、素晴らしいではないか。男子だけだった新潟中学で育った私達に比べ、今共学として男女協力し理解し合って青春をすごすことは素晴らしい。

この会報にも表していたきたいと思っっている。私達の時代に果し得なかつた、そして夢でもあつた青春の「ページ」。

# 68回生だより

## 今年は何払い二次会を

58回 北村泰作

我々68回生の幹事は、駒林君と小生がおおせつかつており、また東京は渡辺泰彦君が東京青山同窓会の事務局長という関係もあつて幹事役をお願いしている。

68回は、従来、総会への出席率はあまり良い方ではなく、いつも15人程度、もちろん、サントリーホテルにはとてもオビではないのが常であつた。ところが一昨年卒業20周年を記念して、総会の後特別二次会を駅前の金剛に設営しあちこちに呼びかけたところ、なんと、女性数人を含めて50人弱が集まり、また3年生当時担任の先生方にも出席していただき、和気あいあいのうちに思い出話に花を咲かせたのであつた。そして、「来年も皆集まろう」と言い交わしながらお開きになったのであるが、昨年は元のモクアミで例年の出席数に戻つてしまつた。

我々は今年がちょうど厄年にあたる。(但し男子) 社会的にはちょうど第一線を中心になって仕事を

さて、今年は何払い二次会を盛大にやろうと計画中であるが、果して出席は如何。女性はその子供に手のからなくなつたことでもあるし(中には

六年間も在学したので、思い出の先生方はたくさんおられて枚挙に遑まない。思い出も尽きない。何と言つてもまず校長、磯幸次郎(電気鯨)先生。卒業アルバムに一書こうたら、遠山無限碧層々」と書いてくださった。今でも大切にしている。卒業後、時折この書を思い出すと、悠遠々々の思いが湧いてきて、小さな世事のこたわりやしらがみなどは、いっぺんに吹き飛んでしまふ。六年間の在学中に学んだことは、理想は高く物には動ぜずの風格であつた。

思い出の先生方

60回 小林智明

創立五十周年の寄附金の要請が来たので、それを口実に久しぶりに同級会を話がつまらした。

案内状の中に趣意書を同封し、欠席の者は後日学校へ送金をと依頼した。

二月九日、駅前シルバーホテルでの会合には、四国高松からの仲村真君を始め女性三名、男性十四名の出席であつた。カメラ持参の者もあり、久々として、卒業時のクラス別に写真をとつたりした。四十路を越すと、それぞれの人生をききながら、顔も頭も様々だ。あれは誰だつた? とつつき合うのも始めのうち。先生方のアダ名や、級友の誰彼のうわさをし合ううちにすつかり打ちとけて、昔日の紅顔の美少年の頃の思い出話しがはずんだ。「雨の夜の品定めではないが、あの娘は可愛いかったなあ」「あれ、おまえもそう思つてたんか」と、とんだところで恋敵に再会。二十数年前の懐しい話で、我々は眞高男女共学のはもうとんだから、年に一度位、

# 寄附金集めの同期会 (57回)

67回 石田 薫 穂



集まろうとか、東京と合同でとか先生方も招待してとか、幹事役の苦労も知らず、要望は次々に。それでも皆の協力の寄附金を会場集めて、後日学校へ届けたら律儀な欠席者も多数送金してくれており、幹事も面目の立つた次第。

# 画人笠原靉と

## その父 漁村 (一)

60回 小林 智 明

### 漁村 新潟中学校の教師

とるる

明治二十三年五月、わが新潟中学校に渡辺靉という教師が赴任して来た。漁村と号する漢詩人であった。世は日清戦後、日露開戦の前夜で、ひたすら国力を養う臥薪嘗胆の時代。学校には質実剛健の氣風が漲っていた。当時は新潟県新潟中学校と称し、校長は五代目森岩太郎。明治二十五年七月一日に、新潟県尋常中学校として開校されてより、未だ十年とは経っていない頃である。

しかしそれまでに、第一回から第七回までの有為の卒業生二百余人を世に送り出していた。その中には第四回生に岡田正平(初代民選知事)、第五回生に桜井天壇(トイツ文学者・八高教授)、第六回生に建川美次(敵中横断三百里で勇名を馳す。駐ソ大使・陸軍中將)、第七回生に會津八一(歌人・美術史家・新潟市名譽市民)、野上俊夫(実験心理学の開拓者・京大名譽教授)、田崎仁義(経済史家・長崎商高・大阪商大教授)、渡辺靉(帝大史学科より渋沢栄一歴史編纂所に入る・漁村の長男)などの俊秀がいた。更に八回生の伊藤誠哉(北大総長)、難波剛平(眼科医)、九回生の青木得三(中央大



渡辺 漁村

性善ヲ歎み。一斗乱れず。頭粗服して高瞻遠歩。俗輩を睥睨す。

音吐鐘の如く。其の談論、他を叱吃するが如し。……と紹介している。その他、漁村の生い立ち、逸話などを抄出して要約すると

○漁村の父は、渡辺舎人といひ、佐渡金鉱の吏であった。家は相川の板坊という片田舎の海のみぎわに、あまの家と雑居していた。漁村はその二男として生まれた。漁村の号もそれに由った。

○幼にして官学修教館(文政年間佐渡奉行泉某により創建)に入り、旁ら円山溟北に就いて学問を受け、精苦人に絶し、忽ち朋輩を凌いだ。同門に萩野由之、大久保湘南がいた。

○十八才の時、修教館の句読師に推挙され、ついで相川県の吏となった。

○廿五才の時(明治十一年)新潟に出て、初め県吏となったが、後に収税属となり、小千谷、新発田などの諸署を歴任した。晩年に新潟中学校属託教師となり、漢文を授業して十五、六年。病んで大正三年に歿す。六十一才であった。

○初めて新潟へ出て来た頃は、甚だ貧乏であった。或る日、引越しをするとして家具を車に載せ、夫妻でこれを曳き、押していた。途中、小崎藍川に出会った。漁村呼び止めて「わがはいの貧乏はまだ孟郊には及ばない。なぜならば、車に数台の家具があつて、運搬に甚だ労力が要る。君助力してくれよ」といふと、藍川は辟易して遁れ去った。

○漁村の夫人はよく家をまもり、

漁村はその賢を常に称していたが、少しでも自分の意に逆らうとたちまち怒声を浴びせて罵る。夫人は柳に風と意に介さなかつた。或る夏の夜、漁村が大いに酔つぱらつて帰宅し、尚も飲むから酒を出せと大声で呼んだが、夜も更けていたので夫人が言うことをきかないと、漁村は怒つて、賤婦のくせに無礼な奴だ、ととつと出て行け、と下り半を書いてやった。夫人は、あ、そうですか、それでど、吊つてあつた蚊帳をとりはずしにかつた。漁村、何をするかと怒ると、夫人は「これは私がお嫁に来た時、持つて来た蚊帳です。今、帰れと言われれば持つて帰るのは当然です。漁村大いに窮した。蚊帳を持つて行かれれば蚊に攻められてたまらない。閉口したあげくに、女の夜歩きはするものではない、明日の朝にしろ」と言つたという。

を歴任して、明治二十三年五月に退職すると、わが新潟中学校に漢文科、習字科の教師として赴任することになった。これはこの年一月まで、名譽知事として在任し、漢詩人として漁村と親交のあつた勝間田稔(蝶夢・長門の人)の推挙であつた。

当時、明治二十三年七月発行の新潟中学校校友会誌「遊方会雜誌」第七号には「恩師の移動」欄に、

◎渡辺靉先生を迎ふ。漢文習字教授として、われらは渡辺先生を迎へぬ」と簡単にその着任が紹介されている。

(以下次号につづく)

を歴任して、明治二十三年五月に退職すると、わが新潟中学校に漢文科、習字科の教師として赴任することになった。これはこの年一月まで、名譽知事として在任し、漢詩人として漁村と親交のあつた勝間田稔(蝶夢・長門の人)の推挙であつた。

当時、明治二十三年七月発行の新潟中学校校友会誌「遊方会雜誌」第七号には「恩師の移動」欄に、

◎渡辺靉先生を迎ふ。漢文習字教授として、われらは渡辺先生を迎へぬ」と簡単にその着任が紹介されている。

(以下次号につづく)

# 58回卒 玲瓏会報告記

## 五月十八日開催

58回卒は、校歌の最初の言葉をとり「玲瓏会」と称し、58回だから、毎年5月18日に同級会を行つて来た。

学制の変わり目に当つていたので旧制5年で卒業した57回卒も含んで、今年には新潟市の割烹旅館「小甚」で渡辺秀英先生を迎え24名とますますの出席状況であつた。

幹事をやつていると毎年一人は新顔が来てくれると嬉しいものである。今年には第四銀行の白井、市役所から3人、第四銀行から3人と、同じ職場からまとまつて出てくれたのもよかつた。同じ職場であると色々縦の関係などがあつて、互いに誘いつらい点もあろうかと思うが、同級会は、皆同格と割り切つて、これからも県庁なんか大勢居るんだから誘ひ合つて出てもらいたいと思ふ。

会はず先ず渡辺先生のお話してから先生はずに古稀を過ぎられ、近年はご自身のメシの種となつて下さつた方々へのお礼参りに精を出して居られる。昨年是最もお世話になつた孔子様の廟へお参りに北

京まで行かれた。そしてそこで、感じられた事を漢詩に認められ、前回の玲瓏会で我々に配給して下さつた。

今年には日本の文化の直接の故里である韓国の扶餘、慶州を訪ねられた。同行する者は料理屋七福の若主人、呉服屋松美屋の旦那、何れも歴史が商売の次に好きな方々であるが、二人共、我々より10才から15才位若い。先生も若い人と付き合つて居られてお若い。今回も短冊を4枚頂戴した。宴会が始まると早速くじ引で短冊を配つた。24人中4人しか当たらないから激戦と書いたくじを引いた。11月の選挙に再選を期す彼は幸先がよいと大喜びであつた。当選した人はしかし何れも短冊に書いてある意味が判らない。一人づつ先生の前へ出て行つて有難い講義を受ける事になった。

同級会に以前コンパニオンを2、3人入れた事があつた。しかし彼女らは全く相手にされなかつた。今回も昔話から景気の話へとはずみ、一人3分の自己紹介も含めて2時間が瞬く間に過ぎてしまつた。

「玲瓏の天、仰ぐ時……」校歌を歌えば来年までお別れである。降り出した小雨の中を三々五々二次会へと散つて行つた。

# 新中端艇部 東京OB会と懇談

38回 近藤 圓

昭和五年八月、琵琶湖での全国中等学校漕艇選手権大会で準優勝した時(詳細は本誌25号に)五番を漕いだ等原文雄が病氣療養中のため、四月八日当時のポート仲間と見舞った。新潟から山口、近藤、名古屋より大石、地元東京より江川、河内の同期生五名が笠原の住



来るというので、新中端艇部東京OB会が目黒駅近くの日立大崎クラブという素晴らしい庭園を持つ日本座敷で懇親会を開いて下さった。ここでも久しぶりの対面者も多いこととて、中村神字博士を中心に、艇庫、信濃川、栗の木川、白根、福島湯澤等、思い出話は尽きず、三時間の楽しい一時を過ごした。



笠原文雄君

## 寄稿のおねがい

会報は、年一回の発行ですので随時会員の皆様からの寄稿をお待ちしています。会に関する意見、提言、随想、想い出(恩師、旧友)体験等後をふり返るばかりでなく、近況報告、等々、取捨を編集部におまかせの上でお願い申し上げます。写真などを添えて、一篇を400字~600字位にてお送り下さい。各地からの便りや、クラブ会、クラブOB会などについても報告をお待ちしています。

# ハイティーン水泳

新中・新高②

連載 60回 平田 大六

(関川村)

## 4 雨の日も

水泳の練習は五月一日から連日だった。はじめて冷たい雨の降った日は、私は教室の中でうきうきしていた。雨で練習中止になり、まっすぐ帰れるだろうと思ったのだ。それでもプールへ行つた。せまい部室(ぶし)に皆いる。フンドシいやあ! 雨が、と二年生が云うと、上からぬれるも下からぬれるも同じわいパーカ! とどなられた。

## 5 先輩

先輩もプールへやってこられる。先輩になつて「仏さま」のようになつたものや、そのままのもの、コーチをしてくれるものや、フンドシ一本借りて体を冷やしてこられるものなど雑多である。ある午後、旧制新潟高校の二筋の白線をたらし破帽に、白ガスマリ、ハカマという姿で、高歯(ゲタのこと)を鳴らしてプールに入

## 6 水の送別会

新入部員が急に減りはじめた。練習のつらさと、上級生のこわさである。ここで上級生は、残っている者へ見せしめを演じた。これは、凄惨なセレモニーであった。まず、退部を申し出た者を、素裸にしてプールへ投げこむ。同時に上級生数人が水に入つてこの生徒を沈めるのである。苦しくなつて浮上してくるのをまぢかまえて、また沈める。半殺しのような状態でプールの岸につかまろうとすると、また手をはずして沖へほうりこむ。



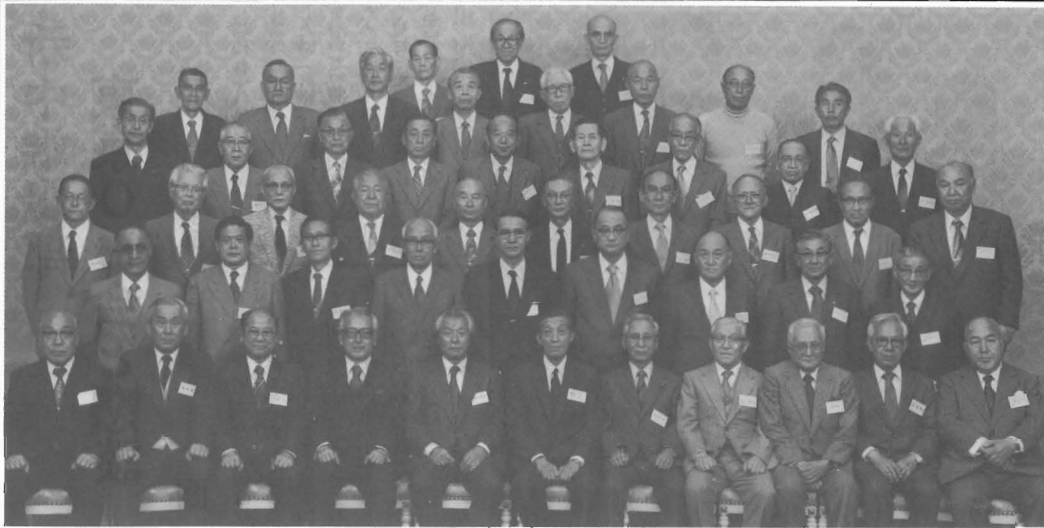
著者 平田大六

たな、とか、もつとやらせろ、とかの小言をもらっている。やがてその先輩は、さつと着物をぬぎ、黒っぽいフンドシをしめキエーツ、と叫んで水にとびこんだ。そして体をぬらし、最高の笑顔であがつてきた。いままでのムツとした表情はない。そして、オイと声をかけ、一番速い選手とスタート台に並んで百メートルを泳いだ。それが、めつぼう速いのだ。この人が、大黒善弥(五〇回)先輩であった。私にとつての生涯の水泳の恩師である。



あとで、自分の道具をまとめて去つてゆくのだ。あいさつぐらいいてゆけや! 弱々しく「せんなら」と云いすて仲間をプールを去つていった。もう二度とプールへは来ないし、校内でも顔をさけていた。しかし、私は「送別会」を覚悟で退部を申し出る勇気に驚いた。私は夏休みを待った。家へ帰れるからだ。はなしてみると、夏休みは水泳部のカキ入れ時だから帰さない、ウンだと思つたら大黒さんにきいてみる、と云われた。私は、プールサイドのプラタナスのそばで、このことで、はじめ大黒監督と対峙(じ)した。意外に語気はおだやかで、一年

# 青山三九回 卒業五十周年 記念パーティー



昭和7年3月卒の我々39回同期は今年が50周年にあたるので、昨年2月から広く旧友に呼びかけ会合の準備と記念誌発行の手配をすすめてきた。記念誌もオリオン印刷(株)の協力により刷り上がり、いよいよ当日となった。時に4月24日(土)若葉の麗日。

会場イタリヤ軒には定刻午後2時に続々と詰めかける同期は北九州市から飛来の浅井卓君はじめ県外よりの12名を含めて総勢50名。全く50年ぶりの初対面もあり、受付子もマゴマゴ。お互に胸の名札と顔やオツムの発げ具合など見くらべて「やあ、お前か」などと大笑い。

全員揃ったので先づは5階の写場で記念写真をパチリ。次いで2階の会場(中華卓)に移り、白山さま神主による神式の物故旧友の慰霊祭を行う。祭壇には寄贈の、「きりん」特級一本を供える(津川町下越酒造 佐藤平八君より届けられる)。祭詞の中に戦死23名、病死47名の旧友の姓名が神主よって読みあげられると、かつての赤線帽をかぶった元気を姿が想い出され、老童一同肅として声なし。次いで開宴。先づ白鷺誠一君、地元を代表して挨拶。阿部助哉君(二区・代議士)の乾杯首頭によりスタート。飲みまた語り、応援歌「かすみ棚引く……」を皆川竹次郎君の怪声リードにより合唱。胃袋の調節をやり、翌日の知事選のために挨拶に来られた候補者代理、君芳子夫人を迎え、一同応援歌「青山」を合唱し大いに激励し

て宴は盛り上がる。高橋新 君のマンダリン演奏、想い出の名曲リバイバル、皆川登良夫君手配による美人ホステス6名のマナーのよいサービスに老青年の意気いよいよ高く、時間のすぎるのも忘れる。やがて終宴も近く、猪初男君(新潟大学長)の乾杯の首頭に一同盃

を上げ、なつかしき旧校歌の第一節を歌い、会を閉じた。「俺は今まで母校愛など忘れていたが、今日のこの会に出席して初めて新潟中卒を卒業した気持ちになったよ……」。東京から50年ぶりに出席してくれた渡辺俊男君(日大教授)の一言が世話人としては何より嬉しかった。



さて、三九会の諸君、六十周年ほどで開くか。東京に集まるかそれとも上越の温泉に首までどっぷりつかって……。

先づはそれまでお互に健康第一に。再会を期す。

青山三九会の現況  
(昭57・5現在)

- 住所確認 一三名
- 戦死・病死計 七〇名
- 住所不明 二三名
- 計 二二五名 (福山記)

## 青山38回 70回目の会合

第二十八回卒業生の集いである青山三九回は、定例六十六回巨臨時総会を加算すると七十回になるの会合を、月二十日午後六時から例によって級友の宿田中ホテルを会場として開催した。一口に六十六回とか七十回というけれど、よくぞ重ねたものと我が事ながら感慨無量のものがある。毎度の集いは詳細の記事がその都度当番幹事によって会誌に誌し残され、これも同じく級友の安達写真館の撮った記念写真と共に記録として永く保存されているのである。続

けることだけが必ずしも立派だとは言えないだろうが、それならやつてみなど言われても時間的な制約があるから、おれそれと真似のできる事ではない。そうした意味からは貴重な歴史を積重ねていく存在であり、巋然たる記録であるうことを自負して止まないのである。集う強者等(ツワモノ)にも常連というのがあるのは勿論だが、いつも珍しい顔も見られ、時には卒業以来始めてお目見得という者まで出席するというわけで、毎回新鮮な気分が愉快な時間を過せるということが本会の魅力の一つということになるか。定例会は特別の事情のない限り年一回開催し、従来は市内居住者を主な対象としてきたが近年は遠く関東関西方面にも呼びかけ、一回は一泊旅行を計画して益々強固な結びつきを固めている次第である。然しながら残念なことに会友の齢既に古稀に達せんとして、これから先何年続けていけるものやら、何人集まれるやら誠に心許ないのだが悪運(?)の強いのが二人でも三人でもこの歴史を延ばしていこうというので頑張っている。何時もの事ながら集れば大いに飲み喰い、会果つる頃ともなれば「青山青山」や「霞たなびく」さては「強者等」の大合唱で幕をとじるのだが、半世紀前に若返ったような気分にはたれるだけでも誠に有難い会合だと感謝している。幸あれと青山三八会の団結を讀えよう。

一九八二・三 山口記



# 43回 クラス会 入学五十周年

## 記念大会を開催

去る十月二十四日、新潟市鍋茶 たららには、内山巖(物故)・近屋において県外勢十五名、県内勢三十三名、同伴夫人三名、計五十七名が参集し、上記大会を開催。記念写真撮影、物故者に黙とうを捧げた後、田中、郎東京代表幹事、本田幹事の挨拶で開宴。近藤常任幹事、加賀田、岩永、高木、本田当番幹事の肝入りで、古町一流どころの姐さんがたによる絢爛たる踊り舞台を觀賞。盃を挙げ、純子の数を増すにつれ、心は五十年の昔に翔び、談盡くるを知らず。予定時間を延長して猶名残りを惜しみながら、校歌・応援歌の合唱に続いて万才を三唱、固く再会を約して散会した。

又、当日は午後三時から希望者参加して、大畑町の加賀田邸で庭園・美術品鑑賞、茶会を催し、静寂優雅な昼の一ときを満喫した。我々昭和十一年卒業生は、卒業当時、世は既に戦時色に包まれ、終戦後の昭和二十一年までの十年間は戦争と困乱のうちにその青春を送り、その後は十年刻みに戦後復興時代・高度成長時代・低成長時代を経験、そして今六十代の半ばを迎えて高齢化社会という未知の時代に入ろうとしている。まことに史上珍らしい激変の時代に遭遇した年代と申せましょう。

こうした中であって、毎年一回の同期会が欠かさず続けられてき

があつた事と、毎回交替で当番幹事を勤めた会員の熱意があつたればこそ。そして三年から五年に一度の東京を中心とした県外勢との合同大会もその成果の一つであり、次の卒業五十周年記念全国大会の開催も大いに期待されている。



(43回生)

六十才の坂を越えて、最近のクラス会はずますます和氣あいあい、出席者数も増加の傾向にあり(一種の老化現象かも?)。会員の間でも開催当日を心待ちされている状態で、今後とも欠かさずことなく開催を決意し合っている。今日まで

## 71回生(昭和三十八年卒) 二年前に初会合 大きな輪とつながりを

年を経るにつれ、旧友を懐しく想い、疎まじき勲字の日々を思い出のひとつとなる不思議な年齢に近づいた我ら71回生。最近、頼にその活動を活発にいたしており、某クラスが頻繁に会合を開いている、などと聞き及んだ同期連中数人が労をとり、とにかく同期会をやってみよう、と頑張った結果が一年前の第一回会合。顔を合わせ、喜び合うかつての仲間を見て思ったことは、この輪をもっと大きくしよう、もっと多くの仲間を集めようということ。そんな気持ちで突張っている昭和38年卒業組です。

「同窓生」という言葉は不思議な魅力を秘めております。「青山です」と名乗り合うことにより、互いの垣根が雲散霧消し、気がつけばシニイクハンド、何と心地よいことでありましょう。我らも中年族に近づいたとはいえ、毎年恒例の青山同窓会に集まれる諸先輩には比すべくもない若年者です。



## 新中46期生在京同期のつどい

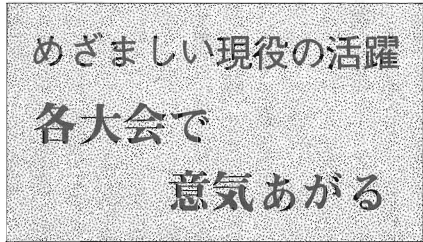


去る二月二十六日、東京・新橋の新橋亭本館にて、昭和14年卒の第46期在京同期が開催された。還暦を迎え、いよいよ人生の佳境に入り、新潟を離れて活躍の在京者十六名に、新潟の観光資料を土産に来た鶴巻を加えて、三つの円卓を囲んだ。当日業務のため急ぎに欠席をみたが、業界での重鎮、ぬけられなかつたのは残念。

「やあー。」「おう。」「今の誰だ」と、卒業以来初めての顔もあり、名札をつけて再確認、やがて往時の童顔のあとを見つけて歓談。幹事(福島弘、山田市男、浜田敏衛)から経過報告などあり、乾盃。酒間に次々と立って自己紹介がなされ、在学当時、軍隊生活、そして現況と人それぞれの生き方が語られ、また恩師のこと、亡き友の回想と互いに感深いものがあった。

記念写真のあとは、校歌、応援歌を歌いまくり、万才三唱して会を閉じた。次回は今回同様「二月最終金曜日(58・2・25)新橋亭(シンキョウテイ)で、18時より」と決定。出席者は写真のとおり。

文武両道・現役諸君活躍のあと 昭和57年度大会結果



快挙！ 野球部
秋、春北信越県大会に優勝
昨年の大会で、糸魚川高校を破って二九年ぶりの優勝を決めたのに続いて、本年春の決勝戦で新発田高校に快勝して新記録を樹立、全国的にも注目のまとなった。
中村投手を中心によままとつた今年のチームは、秋に比べ打撃

失点数を比較してみると、秋の17点に対して今春は7点と大差がついている。
甲子園大会が始まる。下馬評どおり快進撃を続けられるか。きびしい夏の大会だけに、実力プラス精神力がなによりも要求される。
校旗をせひ見たいと願うものである。(上杉)

◎ 今号は九十周年記念事業の進捗状況と、寄附金の集まり具合をごらん下さい。幸いなるかな、会員各位のご協力と幹事の努力の賜物が順調な寄附にあらわれております。あと一息、お金はいくらあつても困るものではありません。
未だの校友同窓に一声かけて予算を大中に越えたいものです。
◎ 小林智明氏の労作と、平田大六氏のつづきもの、どうぞ楽しみにご覧下さい。
◎ 九十周年にむけて、本来ならば企画特集をと考えて居りましたのに、時間切れとなりませんでした。例年の如く寄稿に助けられた点、感謝申し上げます。

◎ この会報も総会当日に配布される外に、市内を始め全国各地の会費を納入下さっている貧しい方に送り届けられているとのこと。記事の中に、主として八十周年記念事業の結果を写真で入れてみました。
◎ 今号ではクラブ関係OB会では端艇部関係だけでしたが、その他のOB会の模様など編集部にて報告を願いたいと思います。
◎ クラス会の写真、出席者名が記入されてある期も多いのですが紙面の都合でカットさせていただきました。その分大きく写真をのせてみました。

◎ 昨年から今年へ、野球部のめざましい活躍、甲子園で会いましたよ、となれば、全国の同窓にとつて何よりの記念事業となることでしょう。それにつづく各クラブ現役の戦績を表にまとめてみました。(石田記)

Table with columns for 県 (Prefecture), 総 体 (General), and 北 信 越 大 会 (North Shinkyo Grand Meeting). Rows include 陸上 (Track & Field), 水泳 (Swimming), バレー (Volleyball), バスケ (Basketball), サッカー (Soccer), 剣道 (Kendo), フェンシング (Fencing), ボート (Boating), 空手 (Karate), 柔道 (Judo), レスリング (Wrestling), ラグビー (Rugby), 野球 (Baseball), 庭球 (Table Tennis), and 卓球 (Table Tennis).

資料・野球部北信越大会戦績
Table with columns for 57年春 (Spring 57) and 56年秋 (Autumn 56). Rows include 地区大会 (Regional Meeting), 県大会 (Prefecture Meeting), and 本大会 (Main Meeting).

◎ 夏、総会の季節。年に一回の同窓会ではあるが、大方のご出席は夏が圧倒的に多い。元気を顔で又会えたな、とお互いの無事を喜ぶ。(石田記)

昭和56年度 青山同窓会費納入者追加分

(1月より3月までに納入のもの)

(郵便振替口座 新潟4455青山同窓会)
(第四銀行学校町支店口座 275210青山同窓会)

Table listing names and amounts of additional fee payments for the 56th anniversary. Columns include 期及氏名 (Period and Name).

会費納入のお願い
年会費 1口 1,000円
できるだけ1人2口でお願いします。
納入先 新年会・総会の会場
又は母校同窓会事務所へ

Table listing names and amounts of fee payments for the 56th anniversary. Columns include 期及氏名 (Period and Name).